

平成 19 年度
入学試験問題

国 語

2 月 3 日 午後

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを答えて下さい。

- (1) 川にソつて家が並ぶ。
- (2) 誕生日にバラのハナタバをおくる。
- (3) オークストラのシキを務める。
- (4) ケイレツの会社に依頼する。
- (5) 友人をシヨウタイする。
- (6) 同窓会に参加する。
- (7) 問題を提起する。
- (8) 茶道における作法を習う。
- (9) パーティーで仮装する。
- (10) 事件の根幹にせまる。

□ 次のグループの中から、性質の異なる言葉を一つ選び、記号で答えて下さい。

- | | | | | | |
|---|-------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | ア、紅 <small>くれなゐ</small> | イ、山吹 <small>やまぶき</small> | ウ、黄昏 <small>たそがれ</small> | エ、藍 <small>あゐ</small> | オ、銀 |
| 2 | ア、霰 <small>あられ</small> | イ、氷雨 <small>ひさめ</small> | ウ、霧雨 <small>きりさめ</small> | エ、雨垂れ | オ、雹 <small>ひょう</small> |
| 3 | ア、帯 | イ、振り袖 <small>ふりそで</small> | ウ、羽織 | エ、外套 <small>がいとう</small> | オ、足袋 <small>たび</small> |
| 4 | ア、文箱 <small>ふばこ</small> | イ、襖 <small>ふすま</small> | ウ、障子 <small>しょうじ</small> | エ、縁 <small>えん</small> | オ、畳 <small>たたみ</small> |
| 5 | ア、鍋 <small>なべ</small> | イ、鉦 <small>かね</small> | ウ、杓文字 <small>しゃもじ</small> | エ、菜箸 <small>さいばし</small> | オ、蒸籠 <small>せいろう</small> |

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えて下さい。

私の子供のころの思い出は、千曲川ちくまや近くの山で遊んだことばかりです。千曲川で泳いだり、魚をとったり、河原で焚き火たをしたり。また、春にはワラビとり、秋にはキノコとりと、近くの山に出かけました。これらの遊びは、いつも近所の子供たちといっしょです。学校が終わると近くの神社に集まり、夕暮れまで遊びました。その神社は、ケヤキの大木が何本もある、鬱蒼うつそうとした鎮守ちんじゆの森でした。遊んでいると、真上の高い枝にアオバズクがいつもとまっていて、下を見下ろしていました。そのアオバズクをめがけて、私が真下から手づくりの弓で射たことがあります。矢は見事にアオバズクの胸にあたり、逃げた方向へみんなで追いかけてきました。

その神社は、いまは見る影かげもありません。古くなった神社の建てかえ費用のため、ケヤキの大木が業者に売られ、伐採ばっさいされてしまったからです。神社からアオバズクは①いなくなり、夏の夜に聞かれた「ホッホー、ホッホー」と繰り返し鳴く声も聞かれなくなり、かつては、そこで春祭り、秋祭りが行われ、夏には盆踊ぼんぶしりと、地域の人が集まる場所でした。A、いまはこれらの祭りも途絶とだえがちとなり、神社で遊ぶ子供の姿も見られなくなりました。

変わってしまったのは、神社ばかりではありません。水田の用水路は、水質の悪化、農薬の使用、コンクリートで固められたことにより、生き物の住めない川に変わりました。B、かつてのように川で魚をとらえて遊ぶ子供の姿は、まったく見られなくなりました。千曲川や里山さえも、子供の遊び場ではなくなりつつあり、とらえた魚を食べることも、ほとんどなくなりました。千曲川と地域の人々との結びつきは、すっかり希薄きはくになっています。

わずか四十年ほどの間に、私たちの周りの環境かんきやうは、なぜこれほど変わってしまったのでしょうか。その根本的な原因は、我々日本人の生き方や価値観が大きく変化したことにあります。その変化をもたらしたのは、敗戦にまでさかのぼると私は考えてい

ます。

戦後日本人は、伝統的な古いものを否定し、アメリカを手本に豊かさと経済効率を求めて、五十年間走り続けてきました。その帰結として、たしかに私の子供のころとは比べものにならないほど豊かになりました。しかし、その豊かさ②と引き換えに失ったものは、はかり知れないものがあるように思えます。

C、かつての身近な自然と生き物が、つぎつぎに姿を消しました。姿を消したのは、ブッポウソウばかりではありません。メダカなどの魚、チョウやトンボ、ホタルといった昆虫類、カエル類など、水田耕作とともに栄えてきた生き物たちです。

D、経済効率を追求した結果として、水田の用水路はコンクリート化され、それまでのように地域の人が総出で川の掃除をする必要がなくなりました。そして地域の人がいっしょに何かをする機会が減り、みんなで助け合うことも少なくなりました。

豊かさ引き換えに生じた歪みは、とくに子供たちに深刻な影響をもたらしている。私は感じています。家の外で近所の子供同士遊ぶことがなくなり、一人自宅でテレビを見て過ごしたり、テレビやパソコンゲームに熱中するというように、子供たちの遊びが大きく変化しています。

③ 大学に勤めて二十年以上になりますが、学生たちを見て、つくづく私の時代と違④なあと感じるのは、子供のころの原体験の豊富さです。私は、子供のころに遊びを通じて身につける、すぐには目に見えない重要な能力があると思っています。それを身につけた上で知識を得ていけば、知識は生きる知恵となります。しかし、子供のころにそうした原体験を持たないまま、塾などに通って知識を身につけたとすれば、それはたんに受験の道具となり、生きる力にはならないのではないのでしょうか。

日本は、どこかで大きな間違いをしてしまった気がしてなりません。敗戦を契機に、経済的に豊かになれば幸せになれると信じ、これまで突っ走ってきました。しかし、その間に失ったものを考えると、日本人は本当に豊かになり、幸せになったといえるのでしょうか。

真の豊かさとは何なのか。その新たな答え探しは、日本人自身が日本文化の素晴らしさを再発見することからはじまると私は考えます。私はこれまで、カッコウの研究で、北アメリカ、ヨーロッパ、中近東、オーストラリア、東南アジアと、世界のさまざまな国を訪れ、それぞれの国の自然を見て回る機会に恵まれました。さまざまな国の自然を見て痛感したことは、文明が栄えることで自然が破壊され、自然が破壊されることにより文明も滅びることを、世界の歴史は繰り返してきたということです。チグリス・ユーフラテス川からはじまった古代文明は、その後中近東からエジプト、ギリシャ、ローマといった地中海沿岸に、さらにはヨーロッパ北部へと移ってゆきました。それに対し、日本は二千年にわたって文化が栄えたにもかかわらず、人々の住むすぐ近くの奥山には、手つかずの自然がいまも一部に残されています。こんな国は、他にありません。稲作に代表される日本の文化は、自然との共存を基本とした文化だったからです。

また、世界全体から見ると、水道の水をそのまま飲む国は少ないことを知りました。まして、その水が飲んでおいしいと感じられる国は、他にありませんでした。日本のおいしい水は、奥山の森がつくり出しているのです。私がしばらく前まで住んでいた長野市内、現在住んでいる牟礼村の水は、とくにおいしいと感じています。飯綱山や戸隠山といった奥山からの水だからでしょう。

(中略)

いま、私たちに求められているのは、物質的な豊かさから、精神的な豊かさへ、目の豊かさから、過去、現在、未来までのタイムスケールでとらえた豊かさへの、価値観の転換ではないでしょうか。

しかしながら、この価値観の転換は、それほど簡単なことではありません。資源の無駄使い、使い捨ての文化を経験した我々にとって、いったん味わった豊かさや便利さは、容易には手放せないからです。昔の生活に戻れといっても、それは無理です。でも、少しずつ自然にやさしい、自然と共存した生き方に切り替えてゆくことなら可

能でしょう。これからはそうしていかなければ、^⑤豊かさや便利さを持続できない段階まできてしまっていると、私は思います。

(中村浩志「よみがえ甦れ、ブツポウソウ」)

問一 —— 線①により、筆者はどのようなことを読者に伝えようとしていますか。

最も適切なものを次から選び、記号で答えて下さい。

- ア、神社の境内けいだいから鳥がすつかり姿を消したこと
- イ、私たちが周りの自然に目を向けなくなったこと
- ウ、神社のケヤキの大木が伐採されてしまったこと
- エ、私たちの周りの自然環境が変わってしまったこと

問二 空らん に入ることばを次から選び、記号で答えて下さい。

- ア、けれども イ、まずは ウ、また エ、そのため

問三 —— 線②について、

(1) 「失ったもの」とはどのようなものだと筆者は述べていますか。次の中から
~~~~~  
当てはまらないものを一つ選び、記号で答えて下さい。

- ア、自然の中で遊ぶことで身につける生きる力
- イ、子供が持つべき将来の目標
- ウ、地域の人たちが助け合うこと
- エ、身近な自然と生き物

(2) ここでいう「豊かさ」とはどのような豊かさですか。次の空らんくらんに当てはまる  
二字の熟語を二つ、これより後の本文中より探してぬき出して下さい。

的な豊かさ

問四 —— 線③とありますが、具体的にはどういうことですか。次の文の空らん  
本文中から適切な語をぬき出して入れて下さい。

「 A 」よりも「 B 」の方が、原体験が豊富なため「 C 」があると感  
じるということ。

問五 —— 線④の中の「日本文化の素晴らしさ」を示す具体的な例を二つ、本文  
中の言葉を使って、答えて下さい。

問六 —— 線⑤とありますが、「豊かさや便利さを持続」するために、どのような  
ことが必要だと筆者は言っていますか。本文中から六字でぬき出して下さい。

#### 四 次の文章を読んで、後の問いに答えて下さい。

梅吉は学校で先生から「笑う門には福が来る」のことわざを習いますが、笑う門を「わらうもん」と読んで先生におおされます。しかしその内容が頭に残り、早く家族におしえてあげようと、学校からの帰り道を急いでいます。

「笑う門には福が来る。」

それをかれは、始終、眼の前にちらつかせ、口のなかで繰返していました。と言うのは、かれはその読み方が出来なくて皆の前で恥を掻いたからばかりではありません。もともと学問のよく出来ない子供であるかれは、こういう事のために皆の前で恥を掻いた例は度々あって、その方の感じはほとんど鈍り切っていたのですが、かれはかれの親たちが貧乏でそのために毎日のように喧嘩をして怒ったり泣いたりする事を、子供心にも悲しく思っていたからでした。そして、先生の教えた通りに、「笑う門」には、「福の神」がやって来て、どんな「貧乏人」でもお金持になれるし、仕合せになれるに違いないと考えたからでした。

梅吉は、「門」を「かど」と読むことを覚えていなかったと同じように、「笑うかど」とは「にこにこしている家の中」のことだと先生が教えて下さったことをも覚えていませんでした。そのように、かれの頭脳はよくなかったけれども、その代りに、思い込むと一心になる癖がありました。

かれは、友達と一緒に家へ帰ってゆく道々も、口のなかで、「笑う門には……」を繰返していました。

「梅ちゃん、お前、何を言ってるんだよ？」

友達の或者は、そう言ってかれにたずねましたが、かれはただニヤニヤ笑うだけでした。

友達の多くは、途中で犬をからかったり、川の中へ石を抛ったり、または、暑い季節のことですから、裸になって泳いだりしましたけれど、かれだけは、早く家へ帰っ

て、このよい教えを親たちに話して喜ばせてやろうと思って、せっせと歩いて行きま  
した。

梅吉の家は、村の本通りからはずっと離れた野中の一軒家で、古い茅葺き家根の柱  
も傾き戸障子も破れた、それはそれは見つともないあばら家でした。

かれが帰った時には、お母さんは家の前の南瓜棚の下で、肌脱ぎになって、糸取り  
をしていました。

「只今。」

かれは、いつになく、麦稗帽を脱いでお母さんに挨拶をしました。

「はい、お帰り。」

お母さんは、ちよつと驚いたように、廻していた糸杵の手を止めながら答えました。

「お母さん、」とかれは鞆を肩にかけたまま、そこに突立って続けました。「僕はきよ  
う、先生から好いお話を聞いて来たんだよ。お母さんは、笑う門………ということ  
知っているかえ？」

「笑う門？」とお母さんは問い返しました。「そんなことは知らないなあ。」

「だから、家では貧乏して、お金に困る困ると言うんだよ。」

「どうして？」

「どうしてって、笑う門には福が来る、と先生が教えたもの。」

「何のことだ！ 笑うもんじゃない、笑うかどだろう？」

「ああ、そのかどだ。けれども、字では門という字を書くんだよ。だから、笑う門で  
も同じことだ。」

「字ではどう書くか知らないが、昔からよくそう言う、笑うかどには福が来るって。」  
「それ程知ってるなら、なぜ家じゃあ、門を造らないかえ？ 小島君のところなどに  
はあんな立派な門がある、だからお金がどっさり溜るんだね。」

「そんな馬鹿なことがあるもんじゃない。お金があるから立派な門も附けるのだよ。  
うちのような貧乏家へ門など附けたら、それこそ、福の神が来るどころか、貧乏神が

笑うよ。」

お母さんはそう言った切りで、あとは、かれが何と言っても、怒ったような顔をして、( a ) あい手になりませんでした。

梅吉は、先生に教えられたことを親たちに話したなら、かれらが ( b ) 喜ぶだろうと思ったのですが、お母さんがそんなだったものですから、( c ) 当てがはずれました。そして、こんな具合では、あの飲兵衛でだらしないお父さんは ( d ) あい手になってくれないだろうと思うと、恨めしいような淋しいような気がしました。

けれども、学校の先生が嘘を教える筈はありませんでしたから、かれは何とかがして、「笑う門」を自分の家へ附けたい、と色々思案をめぐらしました。

だが、どこのお金持の門を見ても、木や石で立派に出来ているけれども、その門が笑うような仕掛けになっているとは、梅吉にも思われませんでした。「門が笑うのではなくて、A が笑うのだ。」と、先生はおっしゃったようでした。そのことを思い出すと、門はどんな門でも構わない、その側へ人間が立って笑いさえすれば「貧乏神は逃げ出して、福の神がやって来るに違いない。」とかれは考えを変えました。

そこで、かれは家の縁の下から三本の丸太をさがし出しました。そして表戸口からすこし離れた所へ、鋏で二つの穴を掘って、長い二本の丸太を門の柱に立て、残りの短かい一本を、踏み台に乗って横に渡して、縄切れでしっかり結び付けました。

まだ十一にしかならない子供ですから、梅吉はそれだけのことをするのにずいぶん手間取りました。

お母さんは、糸取りをしながら、かれの拵える門をおりおり眺めましたが、何とも言いませんでした。

日暮れになって、門がどうやら出来上ると、梅吉はお母さんのところへ行ってきました。

「お母さん、門が出来たよ、見ておくれ。」

その時、お母さんはもう糸取りを済まして、お勝手へ入ってご飯の仕度したくをしておりましたが、涙ぐんだような眼でかれを見ながら言いました。

②「ああ、そうか。」

「来て見ておくれよ。」とかれは重ねて言いました。

「おれはもうさつき見た。」とお母さんは答えました。「今に、お父さんが帰って来たら見せるがいい、何と言うか？」

「お父さんだって叱りやしないだろう、福の神が入る門だもの。」

「そうさ、叱りやしないだろう。」

門は出来ました。けれども、それだけではいけないと梅吉は思ったので、自分でその門の側に立ってあは、あは、あは！ と大声を立てて笑いました。いつまでもいつまでも笑い続けました。家の前を通る人々は、不思議そうな顔で振り返り振り返りしました。

妹が、赤ん坊をおぶって帰って来たので、梅吉はそれをも門の側に立たせて、自分の真似まねをして笑えといいつけました。妹は厭いやだと言って家へ逃げ込みました。

その晩、おそくにお父さんはいつものように酔よっ払はらって来ました。そして暗闇くらやみでの俄造りの門の横木へ突懸つっかかって、びっくりして唼どな鳴りました。

「どいつだ！ こんな悪戯いたずらごとをして置くのは？」

その時には、梅吉を始め子供等は皆眠っていました。お母さんだけが起きていて、お父さんの声を聞くと、ランプを持って出迎むかえました。

お母さんは、梅吉の「笑う門もん」の話をお父さんにして聞かせました。正体もなく酔よっ払はらっていましたが、その話を聞くと、お父さんは、何物かに胸を打たれたようにうしろへ振り返りました。そして暫しばらく考えていましたが、やがて、唇くちびるを顫ふるわせながら言いました。「うむ、おれがわるかった。わるかった！ 好きな酒を飲んで遊んでさえいりゃあ、おれは満足で、貧乏なざあ屁へでもないと思っていたが、あんな子供にそれ程心配を掛けたのか？」

そして、かれは両手で顔を蔽おほうようにして、オイオイと泣き出しました。<sup>③</sup>

「いや、こりゃあ泣いたりしちゃいけないぞ、笑う門もんだ！ 笑わなけりゃならない。

あは、あは、あは！……あいつはどこにいる、梅吉は？」

お父さんはお母さんに連れられて、梅吉の寝ねている所へ行きました。かれは、穏おだやかな笑顔をえがおして、スヤスヤと眠ねむっていました。

「梅吉！ よくした！ 梅吉！ おれは今夜から魂たましいを入れ変えたぞ！」

お父さんが大声でそう言ったのにも拘かかわらず、働き疲れた梅吉は、ぐっすり寝込んだまま、身動きもしませんでした。 B に逢あった夢でも見ていたに違いありません。

(中村星湖「笑う門」)

問一 —— 線①について、お母さんはなぜ驚いたのでしょうか、説明して下さい。

問二 空らん (a) く (d) に入る語を次から選び、記号で答えて下さい。

ア、さぞ イ、すっかり ウ、すこしも エ、たとえ オ、なおさら

問三 空らん A に入る語を文中からさがして答えて下さい。

問四 —— 線②で、お母さんが涙ぐんだような眼になったのはなぜですか。次の中

から選んで、記号で答えて下さい。

ア、福など来るはずのない門を必死につくっている梅吉があわれに思えたから。

イ、いくら子供がつくった門とはいえ、あまりのみすばらしさに情けなくなってきたから。

ウ、梅吉が、家のことを思って一生けんめい門をつくる姿がけなげに思えてきたから。

エ、門をつくったことで、お父さんにしかられる姿を想像すると梅吉がかわいそうに思えてきたから。

問五 —— 線③について、お父さんはどういう気持ちから泣き出したのですか。説明して下さい。

問六 空らん B に入るのにふさわしい語を文中からさがして答えて下さい。

問七 「笑う門には福が来る」とは本来どういう意味ですか、答えて下さい。

問八 次のア～オについて、内容が正しければ○を、まちがっていれば×を解答用紙に記入して下さい。

ア、梅吉はあたまはあまりよくないが、一心になる性格である。

イ、梅吉は学校の先生を尊敬している。

ウ、梅吉の、お父さんへのいたずらは成功した。

エ、お父さんは酒飲みだが情にもろい部分もある人だ。

オ、お母さんは梅吉の門に対して態度を変えなかった。